

二〇一九年度 大妻中野中学校 第二回海外帰国生入試

一月十二日 問題用紙

# 国語

座 席 番 号
番

受 験 番 号
番
氏 名

### 受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて12ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認して下さい。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに座席番号と受験番号と氏名を記入してください。座席番号と受験番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は五十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

□ 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。(字数は記号・句読点も一字と数えます。)

①鷹狩りは伝統技術のひとつだけれども、その根本はたとえば、お茶を飲む時に茶碗を何回廻すかといったようなものとは異なる。こうした「伝統」はいわば、昔の誰かの気紛れによる。実際的な意味はない。つまり、目隠ししたお茶の名人に、一回廻したお茶と三回廻したお茶を飲ませて、その味の差は区別できないだろう。

鷹狩りの伝統技術というのは、むしろ、戦国時代以前、あるいは幕末の、実戦があつた時代の剣法に似ている。戦つて、勝つたほうが偉い。勝つた者の説く剣理のほうが偉い。「②能書き鷹匠になるな」というのは、師の口癖だ。私がこうして「能書き」を書けるのも、人前でタカを飛ばしてみせた実績と、飛ばしてみせる自信があるからなのだ。

お茶と異なり、タカの善し悪しは(見る人が見れば、だが)、はつきりと表れる。自己流の自称鷹匠たちの多くは、人前でタカを飛ばしたがい。ほんとうのところは飛ばせないわけなのだが、話ばかり大きくなりがちなのだ。ちゃんとした技術体系に巡り合えず何十年もタカを続けてしまつと、今さら頭を下げられない——となつてしまつてしまうらしい。その気持ちは判らなくもないが、誤つた方向に向けられた情熱はいかにもつたいたい。もしその情熱が、まともな技術体系に沿つて発揮されていれば……。

お茶を入れる時、どんな葉っぱを使うか、どんな菓子を合わせるか、お湯の温度はどうするか。こうした伝統は、大いに意味がある。お茶の味という、事実上の差異を生み出すからだ。鷹狩りの伝統は、そのほとんどが、こうした、意味のあるものである。そして、量も膨大で、試行錯誤が容易ではない。理想的なお茶ならば、伝統が喪われても何年かの研究で再現できようが、鷹狩りはそうはいかない。だから、伝統が重要になる。

実際、私もそうだけれど、最初からきちんと諏訪流を習えば、最初に訓練したタカで、最初のシーズンに獲物を捕ることさえできるのだ。

では、その伝統による、③「理想的な鷹狩り用のタカ」とはどういうものか。あえて、鷹狩り用のタカ、と書いている。つまり、野生のタカとは違ふということだ。

ひとつは、「丸い鷹」と言われる。これは、「悪癖のない、あるいはきわめて少ないタカ」という意味である。訓練中のミスで、何かを嫌ひにさせてしまうと、その後、そのモノの近くでは、タカは言うことを聞かなくなる。A、野外で訓練中にヒトがぼんやりしていて、自転車に乗った人の接近に気付かなかつたとする。急に近づいてきた奇妙なモノにタカは驚き、チリチリチリ……と鳴きながら、連れているヒト(据前という)の拳から飛び立って、遠くへ逃げようとする。こうなると、自転車を恐れる癖がついてしまう。農地で狩りをしていても、自転車が近づいてくると、獲物に集中しなくなってしまう。丸さが損われたわけだ。

「冴えがある鷹」「しあみがある鷹」という言葉もある。「冴え」というのは、普通の日本語で使う場合とあまり変らない。獲物への反応の鋭さ、とでも言うべきか。冒頭で、キジの最初の搏きでもう、タカは飛び立とうとしている——と書いた。あれが冴えである。冴えのないタカは、キジの全身が叢の外に出てから、「よつこらしよ」と追い始める。当然、追い付く確率は下がる。「しあみ」というのは、多分、鷹匠用語だろう。普通

のことばで言えば、「獲物えものに対する執着心しゅうちやくしん」ということになる。

**B** 捕とれそうにない獲物でも、簡単には諦あきらめないで、しつこく追う。藪やぶのぎりぎりまで追う。**C**、獲物えものは、藪やぶに逃にげ込んだ後も、遠くへ走れない。イヌの助けを借りれば、もう一度追い出せるかもしれない。キジの筋肉は白い速筋すみんで、瞬発力しゅんぱつりきはあるが、持久力に欠ける。タカの筋肉は赤い遅筋ちじんで、瞬発力はないが、疲れにくい。二回、三回と追い出せれば、捕獲とくわくの確率は高くなる。**D**、「しあみ」が重要視される。

「丸くて、冴えとしあみがある鷹」が理想とされるのだが、これは、野生のタカが生き延びる方法とはすこし違ちがうことに留意されたい。

野生のタカなら、自転車が苦手でもちつともかまわない。飛んで逃げればいいだけだ。また、冴えも要らない。野生のタカは、獲物が油断しているところを襲せむう。**E**、タカが最初に仕掛ける。危険を察知している獲物を追うのは確率が悪いから、体力を消耗しょうぼうする割に得るものは少ない。だから、そんなことはしないほうがいい。鷹狩たかがりのタカは、獲物えものが逃げ始めてから追わねばならない。だから、冴さえが必要となる。しあみも、野生のタカには時に有害だ。これも、無駄な体力の消耗しょうぼうにつながる。野生のタカには、二度三度と獲物を藪やぶから追い出してくれるイヌやヒトなどの**F**はいないのだ。

④ 鷹狩たかじりの世界では、メスが貴うとばれる。鷹匠たかじやう用語で「蒼鷹あおたか」と言ったら、メスを意味する。オスは「兄鷹しやうたか」と言う（メスであることを強調した場合は、「弟鷹ていたか」という）。

欧米おうちべいではハヤブサがもつとも重要視される種なのだが、Falcon というのは、第一義的にはメスのハヤブサを指す。オスはTirecel / Tereel という。タカの仲間では、一般的いつぱんてきに、メスがオスより大きい。雛ひなが小さいうち、メスは巣から離れず。オスが専もら狩りをする。小さい雛にとつては、キジやハトなどの大きな獲物よりも、小鳥などのほうが、栄養価が高い。骨や内臓も満遍なく食べることができるからだ。また、小さい獲物ひんぱんが頻繁ひんぱんに運ばれてくるほうがよい。小さい雛は一度に沢山たくさんは食べられないし、しかも、短時間の空腹ですぐに弱ってしまう。より小さく、速く、小回りの利くオスのほうが、小さい獲物を数多く捕とるのに適している。小さい獲物は、普通ふつう、生息している数も多い。そして、タカはすべて、獲物を独占どくせんしたい欲求を持つ。妻子のために巣の近くまで獲物を運んできたオスが、つい悩なやんでしまうことがある。そんな時、より大きくて強いメスは、力づくで獲物えものを奪うばい取り、雛ひなに与えることができる。

雛ひなが大きくなって、自分で体温を維持いじできるようになると、今度はメスも狩かりに出かける。メスはより大きい獲物を捕とる。大きく育ち、食べ盛りの雛たちには、細かな栄養価より量が重要になってくる。少し間が開いても、その後には大食いすればすむ。

こうして、雌雄しゆうが別の大きさの獲物を捕とまえることにすれば、より狭せまい行動圏こうどうけんで、必要なエサが確保できる。行動圏は狭いほうが、同種どうしゆの他の番ばんから防衛するのにもエネルギーが少なくすむ。うまくできているのだ。

そして、この性的二形（メスがオスより大きいこと）は、捕まえるのが難しい獲物を主に捕る種類で、その差が大きい。死体を食べるハゲワシ類では、雌雄はほぼ同じ大きさだ。昆虫こんちゆうやネズミなどを主に捕るチョウゲンボウでは、メスはオスより一・三倍ぐらい大きい。より素速すばやく、捕まえるのが難しい鳥を主に捕る種類では、メスはオスの一・六倍から二倍にもなる。そして、鷹狩たかがりに使われるのは、そのほとんどが、一番最後のグル

ープに属する種類なのだ。

鷹狩りに際して、より大きい獲物が捕れるという点も、メスが貴ばれる理由ではある。

ヨーロッパのハヤブサの例では、体重はオスが六〇〇グラムぐらゐ、メスが一キロぐらゐだが、オスは二〇〇〜二二〇〇グラムの獲物を主に捕り、メスは一〇〇〜一〇〇〇グラムの獲物を捕る。オスは自分の三分の一ぐらゐまで、メスは自分と同じぐらゐまでを捕るのが自然な習性であり、(鷹狩りに訓練すれば、オスも数百グラムの獲物を捕るが、その分不自然さが強いことは否めない)、雌雄の単純な体重比以上の差が生じる。

もうひとつの理由がある。オスは体が小さい分、そして自分に比してより小さい獲物を狙うために、飛行がうまいが、そのぶん、諦めもはやい。つまり、しあみが弱い。小さい獲物は数多くいるから、無理そうだと判ったら、深追いせずに、別の獲物をさがすほうが得なのだ。メスは大きい分、そして、体に比してより大きい獲物を狙う分、飛行は下手だが、諦めが悪い。大きな獲物はめつたに見つからないから、別のを探してもすぐに見つかるとは限らない。であれば、今追っているヤツをとことんまで追った方が得になる。つまり、しあみが強い。

この特性は、野生状態ではちようどいい組み合わせなわけだが、鷹狩りに使うとなると、俄然、メスのしあみの強さが目立つ。二度、三度と獲物を追い出すパートナーと協力するとなると、野生の時以上に、しあみの強さが生きてくるわけなのだ。さらに、メスはより大きい分、他の捕食者に襲われる可能性が少ない。怯えやすさが少ない。オオタカのオスは、油断しているとノスリのメスに襲われて喰われるかもしれないが、オオタカのメスにはその心配はない。また、オオタカのオスは、ペアを組んでいる相手のメスにもいつも怯えさせられている。つまり、メスのほうが自分の力に自信があつて、堂々としている。野生でなら神経質でもいいし、そのほうが生き延びる確率が高いわけだが、ヒトとしては、あんまりびくびくしていると扱いににくい。

「理想的な鷹狩り用のタカ」が野生のタカと違う、というのは、こういうことなのである。もちろん、こうしたタカは理想的な存在で、そう簡単に作れるわけではない。

⑤私が使っている伏姫というオオタカも、冴えはあり、しあみもほぼ充分だが、とうてい、**G**いとは言い難い。たとえば、水を嫌う。昨シーズン、彼女(伏姫はメスである)は、細い川から立ったマガモに、うまく追い付いたことがあった。カモは逃れようと水面に戻った。掴んだのが川の真上、しかも飛び立った直後だったもので、岸まで運べなかったのだ。カモは川面を破って潜った。伏姫とカモはほぼ同大。落下の勢いがあつて、伏姫も水に引きずりこまれた。瞬間は頑張ったのだが、水面が胸に達すると、カモを離してしまつた。川面から飛び立つと、私の呼ぶ声を見つめて、二〇〇メートルほど飛んで、小高い山の中腹の木に止つた。そして、羽が乾くまで降りてこなかった。それ以来、彼女は水が嫌いになつた。もともと、訓練中に必要があつて水をぶっつけたことがあつたうえにこの出来事だ。その訓練後も、この出来事以前は大嫌いというほどではなかつたのだが、……。

跨げるほどの小川でも、流れが強いと嫌がる。これは「丸く」ない一例だ。

今シーズンも何度かカモに当たつた。うまく一羽でも捕らせてやれば、自信は回復するはずなのだ。伏姫はカモが出ると一応は追つた。けれど、す

ぐに諦めてしまうようになっていた。カモに対するしあみが減ってしまったわけだ。  
かように、理想的なタカを作るのは難しい。

(注)

( 波多野鷹『鷹狩りへの招待』筑摩書房より )

※1 鷹狩り … タカ科やハヤブサ科の鳥を訓練して、鳥類やほ乳類を捕らえさせる狩りの一種。鷹狩りをする人間は鷹匠たかじょうとよばれる。

※2 チョウゲンボウ … ハヤブサ目ハヤブサ科に分類される鳥の一種。

※3 ノスリ … タカ目タカ科ノスリ属に分類される鳥の一種。

問一

——部①「鷹狩りたかがは伝統技術のひとつだけれども、その根本はたとえば、お茶を飲む時に茶碗ちやわんを何回廻まわすかといったようなものとは異なる。」  
について次の(Ⅰ)・(Ⅱ)の各問に答えなさい。

(Ⅰ) 筆者はどのような伝統技術に価値があると考えていますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 誰かの気紛れによる自己流

イ. 名人と呼ばれる人の情熱

ウ. 実戦よりも理論的な自信

エ. 事実上の差異を生み出す体系

(Ⅱ) お茶の場合と比べて、鷹狩りではなぜ(Ⅰ)のような伝統技術がより必要とされるのですか。その理由を、「鷹狩りの伝統は、」に続けて、  
本文中の言葉を用いて二〇字以内で答えなさい。

問二

——部②「能書き」という言葉は、ここではどのような意味で使われていますか。最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で  
答えなさい。

ア. 自分の優れた点を並べ立てた言葉

イ. 自分の必要な条件を書き添えた言葉

ウ. 何かがたどってきた経過を説明した言葉

エ. 社会的な地位や身分を明らかにした言葉

オ. 他人の意見を自分の考えのように述べた言葉

問三 ——— 部③ 「理想的な鷹狩り用のタカ」について、次の(Ⅰ)・(Ⅱ)の各問に答えなさい。

(Ⅰ) 「丸い鷹」の「丸さ」が損なわれるとどのようなようになりますか。次のア～エの中から、適切なものをすべて選びなさい。

- ア. 言うことを聞かなくなる
- イ. 獲物に集中しなくなる
- ウ. 人の接近に気付かなくなる
- エ. 野生に戻ろうとし始める

(Ⅱ) 「冴えがある鷹」と「しあみがある鷹」が良いとされるのは、次のどの文と関連していますか。最も適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア. 鷹狩りのタカは獲物が油断している所を襲う役割を持っているから。
- イ. 鷹狩りのタカは獲物が逃げ始めてから追いかける役割を持っているから。
- ウ. 鷹狩りでは、獲物が藪に逃げるまでの間に捕まえないければならないから。
- エ. 鷹狩りでは、獲物が藪に逃げてから何度も追い出すことになるから。

問四 

A
く
E

に入る適切な言葉を次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア. つまり
- イ. すると
- ウ. たたえ
- エ. だから
- オ. たとえば

問五 次の段落は、この文章から抜き出したものです。この段落が入る直前の五字を抜き出しなさい。

サッカーで、自分のミスからボールを取られた選手が、相手選手をしつこく追いかけることがある。そういう時の、選手のボールへの執着心しゅうしやくしんのようなものだと思って貰えればもらいい。

問六 Fに入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 敵対者
- イ. 保護者
- ウ. 指示者
- エ. 傍観者
- オ. 協力者

問七 部④「鷹狩りの世界では、メスが貴ばれる」について、次の(Ⅰ)～(Ⅲ)の各問に答えなさい。

(Ⅰ) メスがオスより貴ばれるのはなぜですか。「メス」「オス」「獲物」「しあみ」「神経質」という言葉を必ず用いて、三五～四〇字で答えなさい。

(Ⅱ) 次の文は、タカのオスとメスのどちらの特徴とくちょうを表していますか。オスであればA、メスならばBを、それぞれ解答欄に書きなさい。

- ア. 飛行がへたである。
- イ. 雛が小さいうちから狩りをする。
- ウ. 小さい獲物を数多く捕るのがうまい。
- エ. 食べざかりの雛たちに質よりも量の獲物を与える。

(Ⅲ) タカの説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 鳥の中でも雌雄の体格の差が大きいグループに属するため、狭い行動圏でエサを確保できる。
- イ. 鳥の中でも雌雄の体格の差が小さいグループに属するため、狭い行動圏でエサを確保できる。
- ウ. 鳥の中でも雌雄の体格の差が大きいグループに属するため、広い行動圏でエサを確保できる。
- エ. 鳥の中でも雌雄の体格の差が小さいグループに属するため、広い行動圏でエサを確保できる。

問八

――部⑤「私が使っている伏姫というオオタカ」とありますが、「私」の「伏姫」に対する現在の気持ちとして最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 冴えやしあみなどの長所を活かし、欠点については目をつぶろうと努めている。
- イ. 苦手なカモを捕る経験をさせて、何とかして自信を回復させてやろうと思っている。
- ウ. 欠点はあるけれど、理想的なタカにかなり近いので、これで十分であると満足している。
- エ. 呼ぶ声を無視するなどの行動から、鷹狩りのタカに向いていないのだとあきらめている。
- オ. 水を嫌うくせを付けてしまったことに責任を感じ、これ以上苦しめる事のないよう気をつけている。

問九

□Gには漢字一字が入ります。本文中より探して答えなさい。



二 次の各問に答えなさい。

A 漢字に関する問題

問一 次の――部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 店内は土足キンシでお願いします。
- ② 彼女はスグれた身体能力を持っている。
- ③ 選手のセナカには大きな番号が書かれている。
- ④ 彼女はスガオのままが美しい。
- ⑤ キチヨウ品は身につけて下さい。

問二 あとの――内のひらがなを漢字に直して、対義語を完成させなさい。

- ① 温和 ―― 乱 ( )
- ② 離脱 ―― 参 ( )
- ③ 利益 ―― 損 ( )
- ④ 故郷 ―― ( ) 国
- ⑤ 劣悪 ―― ( ) 良

じゅうかい ゆうけい ふうみつ ぎやく しつ

**B** ことわざ・慣用句に関する問題

問三 次のことわざの意味をあとのア～オより一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 雨降って地固まる。
- ② 鬼の目にも涙。
- ③ 天災は忘れたころにやってくる。
- ④ 一年の計は元旦にあり。
- ⑤ 井の中の蛙 かむす 大海を知らず。

- ア. 争いや、もめごとなどが起こったあとは、以前よりもかえって理解が深まり、良い状態を保てるということ。
- イ. 物事を始めるに当たっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということ。
- ウ. 自然災害は、その恐ろしさや以前の被害を忘れた頃にまた起こるものであるので、注意を欠かさず備えるべきであること。
- エ. 自分だけのせまい世界や考えにとらわれて、ほかに広い世界があるのを知らないこと。
- オ. 冷くて思いやりがない人でも、時には他人の苦しみや悲しみにあわれみや同情を感じて涙を流すこともあるということ。

C 文法・言葉づかいに関する問題

問四 次の――部の言葉と同じ意味・使い方をしているものを、あとのア～エより一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 父は私に近づきながら、カメラのシャッターを切った。

ア. あの選手はホームランを打つ実力を持っていないながら、いつも空ぶりばかりする。

イ. 隣の小学生は、一輪車に乗りながら、なわとびができるとじまんしている。

ウ. このレストランは、昔ながらの味を守り通しているので有名だ。

エ. 彼は名探偵さながらのすばらしい推理をして、みんなをあつと言わせた。

② 彼女はいつも小声で話をするが、合唱の時は人一倍大きな声で歌う。

ア. 私は、いま話題になっている映画の原作を読んだが、感動して泣いてしまった。

イ. クライマックスシリーズでは、広島のチームもがんばったが、福岡のチームもがんばった。

ウ. 小さいころ仲間と遊んだ森に、とつぜん巨大なマンションが建ってしまった。

エ. みんなはこの画家の作品をすばらしいと言うが、僕にはその良さが分からない。

③ 最近、かぜがはやってきたから、忘れずにうがいをしなさい。

ア. 今日は時間をかけて煮込んだから、おいしいスープができあがった。

イ. 古い家の蔵の中からとても大きな金庫が出てきた。

ウ. 父の大好物の納豆は、大豆から作る発酵食品だ。

エ. このおいしそうな匂いはどこからやって来るのだろう。

- ④ どの町でも、私の母は知らない人によく道を聞かれる。
- ア. 北陸の田舎いなかから父の恩師おんしが上京される。
- イ. 遊園地に行くとお化けやしきで、いつも妹に泣かれる。
- ウ. 八時に家を出れば、八時半までには学校に行かれる。
- エ. 私はこの曲を聞くと、いつも故郷がしのばれる。

- ⑤ 天気予報によると、今年の春はとても暖かいそうだ。
- ア. 一見難しい教科も、何度も読んでいると分かってくるそうだ。
- イ. 彼の意見にみんなが「そうだ、そうだ。」と口々に言った。
- ウ. 雲行きからすると、今夜は雪がどっさりと降りそうだ。
- エ. 兄さんはお母さんおつかにいつも叱しかられてかわいそうだ。

以下余白